



# 仲間と共に

学校目標 「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」

令和7年3月1日

## 未来をつくっていくのは 他ならぬ自分(達)自身

校長 石田耕太郎

「10年に一度」と言われる寒波に何度か見舞われた2月も過ぎ、日差しに春の温もりが感じられるようになりました。

ある日、校庭の藤棚付近で遊んでいた2年生の児童が声をかけてくれました。その場所へ行ってみると、そこにはタンポポの花が咲いており、さらに白い綿毛もありました。一週間ほど前まで雪が降っていたにも関わらず、タンポポは次の世代へ命をつなぐ準備をしていたのです。さらにその児童は、「綿毛のついている花茎(かけい)は、花が咲いているそれよりも長いこと」を「背を高くして綿毛を飛ばしやすくしている」と教えてくれました。「どうして知っているの」と尋ねると、「国語の『たんぽぽのちえ』で学習した」とのことでした。「じゃあ、この花も綿毛になる頃には普段から自然が大好きな児童でしたが、好きなことと学習したことをつないで、目の前にある自然の変化に気付き、自然の巧妙さを実感していました。本物だからこそ感じられるもの、本物につなぐからこそより深い理解が図れるもの、そして本物に出会うことで新たな考えがうまれる。本物のもつ力を実感しました。



2月20日(木)に開校60周年記念「ようこそ先輩」を開催しました。その中で、元三輪南自治会連合会長の堀田秀典氏を講師にお迎えし、「三輪南の未来をつくるあなたへ」と題して特別講演を行っていただきました。講演の中では、堀田氏の子ども時代の思い出や三輪南小学校の歴史、地域社会の抱える課題に対して取り組んできたことをもとに、ふるさと三輪南の未来を担う子ども達に、次の3つのメッセージをいただきました。

1. 夢や希望をもつ
2. まわりの人と協力し合う
3. (失敗を恐れず) 何事にも挑戦する

講演を聞いた子ども達は、「今までよりもずっと三輪南が好きになりました」「これからもふるさと三輪南が素敵な地域になるように、自分もできることを行っていきたい」「自分が夢や希望をもって生活することで、ふるさと三輪南をもっと良くしていきたいと思います」などの感想があり、ふるさと三輪南の未来に希望が感じられました。

校庭の南東に、二宮金次郎の像があります。この像は、昭和10年に建立されたと台座に記録されています。背中に薪を背負い、手に本を持ち、その本に視線を落としている姿は、多くの方の記憶に残っているものではないでしょうか。昔の私は、「偉人伝で読んだ人」というイメージで見えていましたが、今は、「金次郎少年は、落とした視線の先に何をしていたのだろうか?」という思いがします。と同時に、「私たちは、未来をどう見ているのだろうか?」という思いもします。「未来をつくっていくのは他ならぬ自分(達)自身である。」この思いをこれからも大切にしていきたいと強く願っております。

